

南京事件を描いた日本未公開の話題作が遂に公開

その時、ひとりのドイツ人が
南京を救うために立ち上がった。

ウルリヒ ダニエル スティーヴ アンス ダグマー チャン
トクール ブリュール ブシェニ コンシニ マンツェル チンチュー
香川照之 杉本哲太 柄本明 ARATA

ジョン・ラーベ 南京のシンドラー

監督・脚本:フロリアン・ガレンベルガー 製作:ヘンヤミン・ヘルマン ミシャ・ホフマン ヤン・モット 音楽:アネッテ・フォックス 撮影:ユルゲン・ユルゲス 編集:ハンスイエルグ・ヴァイシュブリヒ
2009年 | ドイツ・フランス・中国 | 134分 | 原題:JOHN RABE

EITA CINEMA, FILM FESTIVAL, FRANZOSISCHE FILM FESTIVAL, EUS ENTERTAINMENT, MAJESTIC FILM PRODUCTION, ZDF, PAMPA PRODUCTION, HUAY BROTHERS, LUNARIS FILM- UND FERNSEHPRODUKTION, ARTE, CANAL+, ANTENA 3 FILMS, RAI CINEMA, ORF, FLORIAN GALENBERGER, JOHN RABE, JUDITH THORSTEIN, CHARLE BOUCHER, ANNE CONSYENY, JASMIN MANZEL, ZHANG JINGCHU, TERUYUKI YAGAWA, AKIRA EMOTO, MATTHIAS HERMANN, TOGO BAWA, TETTA SUGIMOTO, ARATA, STEVE BUSCEMI, CORNELIA VON BRAUN, JI XUE FEI, YAZIO SHIZUO, JAPAN
PRODUCTION: JURGEN JURGES, PRODUCTION DESIGN: JULIA KREUZER, TRANSLATION: WILHELM HEINRICH, MUSIC: ANNETTE DICKS, PROPS: LUST CHRIST, PROPS: JUDITH GRUNINGER, COSTUME: GAUDETTE SCAMMA, PROPS: JURGEN TRISTER, MATTHIAS SCHWEIBERCK, STYLING: MARION DAHY, PROPS: QIAO LING, STYLING: CAROLINE VON SENDEN
CINEMATOGRAPHY: NIKLAS THALHEIM, DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY: NIKLAS THALHEIM, EDITOR: FLORIAN GALENBERGER

& EOS MAJESTIC ZDF PAMPA PRODUCTION HUAY BROTHERS LUNARIS CANAL+ ARTE 3 FILMS RAI CINEMA ORF FFF Bayern BIP! medienboard FFF! 20TH CENTURY FOX MEDIA

(2009年、ドイツ・フランス・中国合作、日本語字幕、134分)

日 時:2014年12月9日(火) 18:00 入場料:1000円
会 場:神戸学生青年センターTEL 078-851-2760 阪急六甲下車徒歩3分、JR六甲道下車徒歩10分
主 催:神戸・南京をむすぶ会 <http://ksyc.jp/nankin/> e-mail: hida@ksyc.jp
〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター内
TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878
後援:神戸学生青年センター 協賛:市民社会フォーラム



香川照之、ARATA、柄本明など
日本を代表する役者が参加した本作が
日本未公開。

南京事件70周年
(2007年)に合わせて、世界中では南京事件に関する映画作品が多く作られました。しかし、日本ではそのほとんどが一般公開されていません。私たち「南京・史実を守る映画祭」実行委員会では、日本で上映されることが無かった「南京事件」映画の上映を敢行してきましたが、今回、5年に渡る交渉の結果、本作品の上映にたどり着くことが出来ました。世界中で認められた映画が上映できない、そんなことはあってはならない。そういう素朴かつ当たり前の思いが、私たちの原点です。



神戸・南京をむすぶ会は、96年4月～5月に神戸市王子ギャラリーで開かれた「丸木位里・俊とニューヨークの画家たちが描いた南京1937絵画展」の実行委員会が中心となって、97年2月27日に結成されました。

毎年中国南京の虐殺事件の現場を訪ね、8月15日に侵華日軍南京大虐殺遇難同胞紀念館での犠牲者の追悼式典に参加しています。そして、幸存者（中国では日本軍の被害にあいながらも幸いにも生き残った人々をこう呼んでいます）から、貴重な証言をお聞きしています。

また、南京のほかに年替わりでもう一か所、日本の侵略の跡地を訪ねます。1997年の淮南に始まり、以後、撫順、太原・大同・北京、ハルビン、蘇州・杭州、重慶、大連・旅順、濟南・青島、無錫・石家莊・天津、武漢、瀋陽・長春、牡丹江・虎頭・虎林、延辺朝鮮族自治州、海南島、香港、そして昨年は台湾を訪ねました。現地に立ち、犠牲者の苦しみに思いを馳せることにより、不戦の決意を新たにしています。

今年は、8月13日～19日、第18回目の訪中をしました。1937年の日中戦争勃発時、日本軍が上海から南京へと進撃したコースです。政府の方針を無視し戦争を拡大した日本軍は、中国側の頑強な抵抗に苦戦しつつ、補給も不充分なまま道々略奪、暴行をおこない、その結果として首都で世界を震撼させる南京事件を引き起こしました。これらの出来事のあった場所を訪ね、学びました。

来年も8月に訪中します。参加希望者は、表記神戸・南京をむすぶ会にご連絡ください。